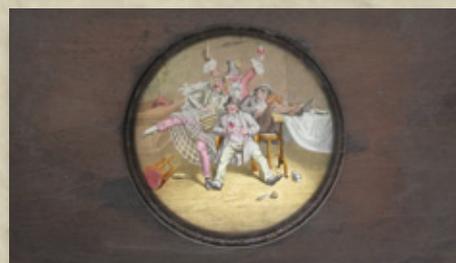


Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより **21** 号



幻灯機

第3代院長の小方仙之助が、米国留学から帰国した際に持ち帰ったもの。伝道のために用いたもので、光源は石油ランプ。聖書にまつわるガラス絵のスライドを壁などに投影した。右はそのガラス絵。

青山学院史探訪

「明治期の女子教育と海岸女学校・東京英和女学校」 齋藤元子 — 2

資料センター所蔵資料紹介

幕末海防論の書 塩谷宕陰『隔鞞論』 佐藤隆一 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内ほか — 8

明治期の女子教育と海岸女学校・東京英和女学校

女子短期大学講師 齋藤 元子

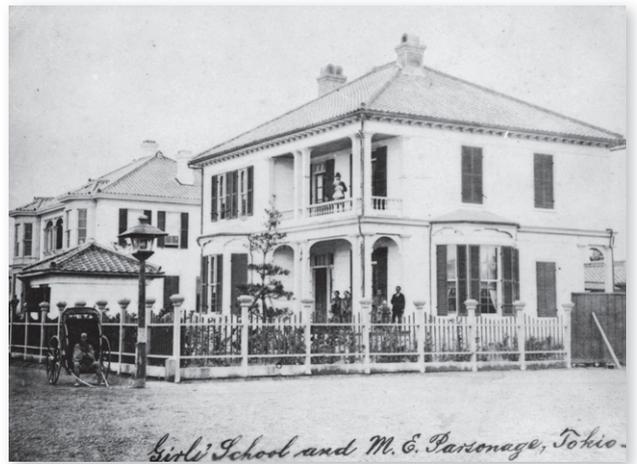
青山学院女子短期大学は、1874（明治7）年に米国メソジスト監督派教会女性海外伝道協会が日本に派遣した女性宣教師ドーラ・スクーンメーカーにより設立された女学校をルーツとしている。麻布でスタートした学校は、三田の地を経て、1876（明治9）年築地の外国人居留地に自前の校舎を完成させ、海岸女学校と名付けられた。

アメリカでは、南北戦争（1861-65）の後、アジアやアフリカの異教地に女性宣教師を派遣する海外伝道運動が、女性たちの間に広まった。この運動は、南北戦争下、志願兵の家族支援、コミュニティの環境保全、戦場へ送る医療物資の調達といった活動を、女性たちが教会を基点として組織的に遂行した成功体験から、新たな活動を模索する中で生まれたものである。教師や看護師の資格を有する若い独身女性教会員をリクルートし、それぞれの異教地の状況にふさわしい人材を女性宣教師として派遣する。そして、教育あるいは医療活動を通じてキリスト教伝道を実践することを目的とした。

主要なプロテスタント教会は、女性海外伝道協会を組織し、複数の協会が誕生した。その中でも、スクーンメーカーを日本に送り出したメソジスト監督派教会女性海外伝道協会は、最大の会員数を擁し、資金調達・女性宣教師の採用人事・事務処理・広報活動などの手腕においても突出していた。

当時の日本は、明治政府により文部省が設置され、学制が公布されて男女の別なく初等義務教育が推進されていた。しかし、中等教育以上においては、男女別学が規定される。そして、政府は男子中高等教育の整備を漸次進めていき、女子をそこから締め出した。

この状況を知ったメソジスト監督派教会女性海外伝道協会は、日本に女性宣教師を派遣する決断をする。最初の女性宣教師として選ばれたのが、スクーンメーカーであった。イリノイ州のハイスクールで3年間校長を務め、十分な教師経験を積んでいたスクーンメーカーは、女子教



海岸女学校最初の校舎 築地明石町10番 1876（明治9）年完成

育とキリスト教伝道に献身するという決意を携え日本へと向かったのである。

46名の生徒からスタートした海岸女学校は、10年後の1886（明治19）年には、生徒数が160名と大幅に増加し、校舎は次第に手狭となる。そして1888（明治21）年9月尋常小学校・高等小学校課程を、海岸女学校として築地居留地に残し、女学校課程以上は青山に移転して、東京英和女学校と名乗るようになる。だが1894（明治27）年6月、居留地の校舎は地震により全壊してしまう。海岸女学校は東京英和女学校と再び統合され、青山において青山女学院として新たな道を歩むこととなった。6月30日閉校式を挙行し、築地居留地での17年半の歴史に幕を閉じた。

海岸女学校は居留地内に設立されたため、開校届など公式の書類を政府に提出する必要がなかった。しかし、1888（明治21）年女学校部門を東京英和女学校と改名し、青山に移転させるにあたり、初めて東京府に「私立学校設置御許可願」が提出されている。それに添付された課程表や教科書用図書表から、その教育内容をうかがい知ることができる。

課程表に示された科目は、英語・和漢学・数学・地理・歴史・天文・博物・動物・植物・地質・物理・化学・生理・衛生・倫理・心理・経済・政治・教育・画法・音楽・聖書・裁縫・割烹・作法であった。

使用された教科書は、和漢学関係を除いて、大半がアメリカの教科書であった。つまり、様々な教科を英語で学んだのである。例えば、地理の教科書は、当時のアメリカで最も普及していたコーネルの地理書が用いられた。この教科書は、福澤諭吉が幕末に渡米した折に、ニューヨークで大量に買い求めた書籍の一つであり、慶応義塾においても使用された。また、多数の官立男子中等学校でも用いられていたとの記録がある。



海岸女学校の生徒と教師たち 1891(明治24)年

つまり、東京英和女学校の教育内容は、慶応義塾をはじめとする男子中等学校と比べても、遜色のないものであった。今日的な表現を用いるならば、ジェンダー格差のない教育を実践したのである。キリスト教系女学校への強い対抗意識を持って設立された一仏教系女学校では、読書・算術・手芸・修身・図画・生花・点茶が教授科目であった。この比較からも、東京英和女学校の教育水準の高さを知ることができる。

海岸女学校ならびに東京英和女学校は、19世紀アメリカに発展した女子中等教育機関であるフィーメール・セミナリー(female seminary)をモデルとしていた。フィーメール・セミナリーの目標は、敬虔にして教養高い家庭婦人の育成、女性教師と女性宣教師の養成であった。

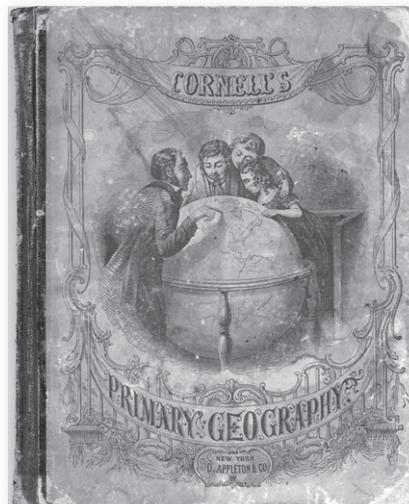
フィーメール・セミナリーの教育内容は、それまでの女子中等教育が一部の富裕層子女を対象とした結婚に備えての教育に止まっていたのに対して、一般教養の重視であった。特に地理、物理、化学、天文といった科学諸科目が、カリキュラムの中核を占めていたことが特徴である。東京英和女学校の教授科目も、地理・物理・化学・天文・博物・動物・植物・地質といった科学系の諸科目が多数含まれていた。科学系科目の重視というフィーメール・セミナリーの特徴は、東京英和女学校においても十分に発揮されていたことになる。

フィーメール・セミナリーでは、地理という教科を「最初に学ぶべき科学」と位置付けていた。東京府に提出された東京英和女学校の「通年学科課程表」を見ると、地理は一年生の初学期に

配置されている。この事実は、フィーメール・セミナリーの精神が海岸女学校・東京英和女学校へと受け継がれていることを物語っていると言えよう。

海岸女学校・東京英和女学校の設立母体であるメソジスト監督派教会女性海外伝道協会は、女性宣教師になるための資格として教師経験を重視した。その結果、日本に派遣された女性宣教師は、いずれも教師の経験を有していた。そして、その多くがフィーメール・セミナリーの卒業生であった。彼女たちは、自らが受けたりベラルな教育を日本の地において実現しようと志したのである。

海岸女学校・東京英和女学校は、日本における女性新聞記者の草分けとなり足尾鉍毒問題の惨状を鋭く報じた松本えい、日本キリスト教婦人矯風会会頭を務めた岩村千代(小崎弘道夫人)、女性宣教師マティルダ・スペンサー(海岸女学校教師)の著した伝道書を翻訳し『スザンナ・ウェスレー女の傳』、『ローチャス夫人の経験』と題して出版した元良米などを輩出した。



東京英和女学校で使用された地理教科書『Cornell's Primary Geography』の表紙(筆者所蔵)

幕末海防論の書 塩谷宕陰 『隔韓論』

かくかろん

『隔韓論』

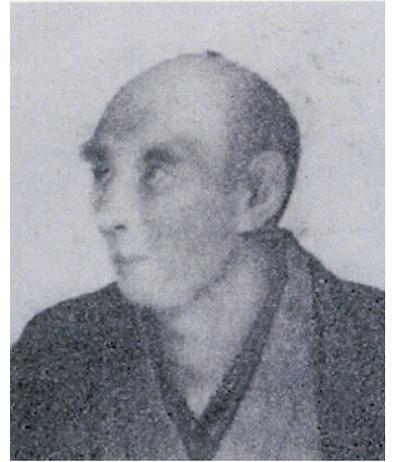
高等部地理歴史科教諭 佐藤 隆一

青山学院資料センターが所蔵する幕末期の注目すべき史料のひとつに、儒者^{しおのやとういん}塩谷宕陰が著した『隔韓論』(1859年成立)がある。『隔韓論』という題名の意味は、中国の故事「隔韓搔痒」(靴をへだててかゆいところをかくこと)に由来し、宕陰が近來の東アジア情勢の激変に対し不満足ではがゆい点を次々と指摘し、開港直後の諸外国との対応のしかたについて率直な意見を述べる構成になっている。

塩谷宕陰は、1809年(文化6)に江戸愛宕下^{いみな せいこう}に生まれ、諱は世弘、通称は甲蔵、そして宕陰と号した。父時義は医業の後に浜松藩主水野忠邦に仕えた。息子の宕陰は16歳で昌平黌^{しやうへいこう}(幕府の学問所)に入学し、1831年(天保2)父の死により、忠邦の臣下として召し抱えられ、その後侍講^{じこう}(儒学の講義を担当する者)に昇格し、嫡男忠精^{ただきよ}の養育係も務めた。忠邦は1834年(天保5)に老中に就任し、1841年(天保12)に天保の幕政改革を断行する。忠邦隠居後に宕陰は、水野家を相続し1862年(文久2)に老中となった忠精にも侍講として仕え、同年には昌平黌の儒官にも推挙されて多忙の日々を送り、1867年(慶応3)に病死している。忠邦は洞察力に富み信ずることは堂々と進言する宕陰を高く評価し、忠精もまた年長の宕陰を師匠のように慕っていた。宕陰の代表的著作には、水野家の修史事業としての『丕揚録』、海岸防備や外交問題を論じたものに『阿芙蓉異聞』・『籌海私議』や本稿で扱う『隔韓論』などがある。

さて、『隔韓論』は、前年(1858=安政5)に幕府が欧米五か国(米・英・仏・蘭・露)との間に通商条約を締結し、当年の横浜開港という歴史上の大変革に際し、宕陰が海岸防備や欧米諸国との外交関係をどのように展開すべきかを、アヘン戦争など東アジア情勢をもとに、彼の学識を十分に生かして述べたものである。形態は木版印刷本で漢文、現在国立国会図書館・国文

学研究資料館・早稲田大学図書館などが所蔵しており、また森鷗外も学生時代の1880年(明治13)にこの『隔韓論』を書写している(東京大学附属図書館所蔵、鷗外文庫)。



よって、幕末・塩谷宕陰(1809~1867)

明治期を通じてかなりの冊数が流布したものと考えられる。

さて、青山学院資料センター所蔵の『隔韓論』は、標題に「安政六年己未開鑄 隔韓論 快風堂蔵梓」とあり、奥付には「書賈 江戸浅草茅町二町目 須原屋伊八」とある。したがって、この本は版元の快風堂が印刷し、江戸の大手の書物問屋須原屋が販売したものである。

その内容は全12節から成る。以下、これらの標題と内容の概略について述べたい。

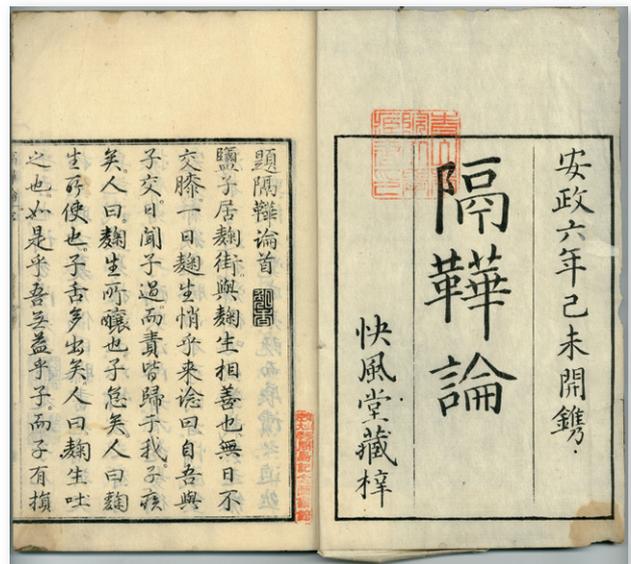
1. 「題隔韓論首」…この本の前書であり、宕陰が英清両国の戦争をきっかけに、止むに止まれずこの本を書くに至った理由が記されている。
2. 「論澳門居夷」…清国におけるアヘンの蔓延は、その前兆があるのに災いへの備えをしなかったことに原因がある。その結果、敗北した漢民族は今やイギリス人の手先にさせられている状況を述べている。
3. 「同窟狐狸」…宕陰は、澳門など中国の港湾都市に來航して利権を奪い取ったポルトガル・オランダ・スペイン・ロシアなどの西洋諸国の人々を「外の狐狸」とし、これを安易に迎え入れた中国の官吏たちをこずるい「内の狐狸」とたとえ、互いに欲の張った妖怪で

あり、君徳は毒にさらされているとするこっけいな解説をしている。

4. 「論聖祖胎謀」…豊臣秀吉が出兵する前に泰平に慣れてほとんど無防備であった朝鮮や、中国の独裁君主であった康熙帝（1654～1722）が千百世の後に中国を煩わせるのは必ず西洋諸国であると予言したことなどを前例にあげ、今後は海軍による激戦の策を立てることが必須であると説いている。
5. 「論宣宗黜林則徐」…欽差大臣林則徐（1785～1850）はアヘンの密輸を摘発して大量に焼き捨てたために、イギリスの軍事攻撃を受けて戦争となり（1840～1842）、道光帝は林則徐を罰して追放した。しかし、宕陰は「烟土の禁乾隆より。辺吏は因循媮媮にして。日また一日。以て後人にゆだね。ひとり則徐奮然として振励し。一朝数百万箱を灰とす。」とあるように、乾隆帝（1711～1799）の時代よりアヘンは禁止しているのに因循な官吏はこの問題を先送りにし、ひとり林則徐だけが毅然とした態度でアヘンを廃棄した点を極めて妥当な措置であると評価している。
6. 「論琦伊放俘」…俘を釈放するのは敵に恩を施すためである。相手は喜んで軍を引く。朝鮮出兵時の豊臣秀吉が和議の証に捕らえた二人の王子を解放したのは良い例である。
7. 「論清十敗」…英清関係はイギリスが10勝、清は10敗である。イギリス人は澳門に居住すること100有余年、清国情勢を熟知しているが、一方清国人はイギリスのことをいっこうに知らない。また、「漢船大ならず牢ならず。激撃してこれを攻めることあたわず。英艦城のごとし。」とあり、漢船は小さく資材も乏しいのに対し、英艦は城のごとく強大で、海軍力の差は歴然としていることを指摘する。
8. 「甘島犬」…清国軍は器械は精巧ではなく兵士も鍛錬されておらず、西洋の堅艦や精兵にかなうべくもないのは明らかである。
9. 「悪嶽狒」…イギリスは清に勝利し、広州・福州・寧波・廈門・上海を借地し、商館を建て、妻子を連れて来住した。これは清とインドを手中にしたいためである。今南インドは孤立

しているの、やがて西洋諸国がこれを占領するであろう。

10. 「論耶教攻心」…西洋人は、当地の民が味方につかないときは人々を耶蘇教（キリスト教）に誘い、主君を仇敵のように憎ませ、官吏たちを蛇蝎（蛇とサソリ）のように忌み嫌わせ、自分たちを神明のように慕わせている。
11. 「福神盜」…キリスト教徒は口で煽り立てて金をつかみ、これをばらまいて民を誘っている。これを信じる者は愚かである。
12. 「論夷進漢学」…イギリス人は康熙字典を訳して急速にこれを進めており、相手国の漢学を積極的に学ぶ姿勢がある。



『隔韓論』 見返し

以上が『隔韓論』の概要である。宕陰は開国論者であり、通商条約体制確立を当然の帰結と受け止めているものの、アヘン戦争など欧米諸国の強引な軍事力の発動によるアジアにおける利権拡大や植民地化には強い警戒心を抱き、危機感を強調している。当時は開港地横浜が大変な賑わいを見せる一方、各地で外国人たちの来航に強い拒否反応を示す攘夷激派の動きが活発化する不穏な情勢があった。宕陰の『隔韓論』は、人々に正確な情報に基づいて開港当初の日本とこれを取り巻く世界情勢を把握させ、国を守り発展させるための適切な対応のしかたを考えさせる、啓蒙の書としての位置づけができるであろう。

資料センター利用状況等 (2019年度前期利用状況)

1. 月別利用者数 () 内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
展示見学者数		284 (300)	82 (193)	450 (602)	302 (327)	885 (854)	260 (225)	2263 (2501)
資料閲覧者数		8 (7)	6 (9)	4 (14)	9 (21)	8 (6)	10 (16)	45 (73)
閲覧者の区分	本学学生	0 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (4)	0 (0)	0 (3)	4 (11)
	現教職員	3 (2)	2 (3)	1 (5)	5 (7)	4 (3)	0 (2)	16 (22)
	旧教職員	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (3)	0 (0)	0 (6)	1 (10)
	校友	2 (1)	1 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	2 (1)	5 (7)
	他大学教員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (1)	5 (1)
	牧師	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	一般	3 (2)	0 (3)	2 (7)	2 (5)	1 (2)	5 (3)	13 (22)
利用の目的	教会史編集	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)
	学校史編集	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	0 (6)	0 (10)
	著述・論文作成	2 (3)	0 (6)	1 (5)	5 (7)	6 (2)	2 (6)	16 (29)
	伝記資料調査	0 (0)	1 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	1 (7)
	記録類の調査・研究	0 (1)	3 (1)	1 (1)	1 (4)	2 (1)	3 (0)	10 (8)
	その他	6 (2)	2 (1)	2 (6)	3 (6)	0 (0)	6 (3)	19 (18)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	6 (3)	2 (3)	2 (10)	6 (7)	2 (2)	2 (7)	20 (32)
	メソジスト教会関係 (B)	1 (2)	0 (2)	1 (1)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	6 (6)
	英語・英文学関係 (HIF)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	明治期キリスト教関係 (IHG)	0 (1)	0 (4)	0 (3)	1 (2)	2 (1)	4 (3)	7 (14)
	一般分類図書	2 (1)	2 (0)	1 (1)	2 (9)	4 (2)	6 (5)	17 (18)
	その他	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	16 (17)	10 (35)	35 (45)	23 (54)	65 (17)	95 (29)	244 (197)
	マイクロフィルム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	写真 (含ネガ)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
	アルバム	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	1 (1)	3 (6)
	個人資料ファイル	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (3)	1 (0)	4 (4)
	ビデオ・DVD等	1 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (0)	2 (0)	5 (3)
	その他	0 (0)	1 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (3)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 () 内は前年度の数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
件数		14 (2)	4 (9)	8 (6)	12 (9)	9 (6)	10 (9)	56 (41)
質問者の区分	学生	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	現教職員	7 (0)	1 (2)	5 (3)	8 (5)	3 (2)	4 (3)	28 (15)
	旧教職員	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (2)
	校友	0 (0)	0 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (2)	3 (5)
	一般	7 (1)	2 (6)	2 (2)	3 (3)	4 (3)	6 (4)	24 (19)
質問内容	文献所蔵調査	1 (0)	0 (4)	3 (2)	3 (1)	2 (1)	0 (0)	9 (8)
	写真所蔵調査	2 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (3)	3 (0)	6 (5)
	事項調査	10 (2)	4 (4)	4 (2)	8 (5)	6 (3)	4 (8)	36 (24)
	その他	1 (0)	0 (0)	1 (2)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	6 (5)

3. 日誌抄



2019年4月

- ・展示ホール、グループ見学 2件
- ・資料センター職員、新人研修のため構内案内
- ・女子短期大学の授業で学生展示見学
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 5回
- ・他部署主催会議に出席 1回
- ・150年史編纂事務打合せ 1回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 12回

5月

- ・学業・就職説明会 (大学2,3年生保証人対象) のため展示ホール公開時間延長 (25日・土)
- ・女子短期大学70周年記念ギャラリー展へ資料提供
- ・展示検討小委員会開催

- ・第1回資料センター運営委員会開催
- ・全国大学史資料協議会総会 (東京経済大学) に出席
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 5回
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 16回

6月

- ・展示ホール、グループ見学 1件
- ・学業・就職説明会 (大学2,3年生保証人対象) のため展示ホール公開時間延長 (1日、8日・土)
- ・キャンパス見学会 (大学新入生の保証人対象) のため展示ホール公開時間延長 (15日・土)
- ・「2017年度の寄贈資料展」開催 (6/11~8/6)
- ・150年史編纂事務打合せ 2回
- ・150年史編纂本部・編纂委員合同会議開催
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 3回
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 19回

7月

- ・展示ホール、グループ見学 4件
- ・特別展示に関する打合せ（相模原キャンパスにて）
- ・『150年史資料編第1巻』外部評価ヒアリングに出席
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』20号発行
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 4回
- ・他部署主催会議に出席 2回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 15回

8月

- ・展示ホール、グループ見学 1件

- ・大学オープンキャンパスのため展示ホール公開（4日～6日）
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 4回

9月

- ・展示ホール、グループ見学 3件
- ・青山学院防災訓練に参加
- ・大学同窓祭のため展示ホール公開（23日・祝日）
- ・特別展示に関する打合せ（相模原キャンパスにて）
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・大学教授来室、150年史編纂のため 8回

2019年度前期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈

- 向山功（校友）様 『NEW TESTAMENT 新約聖書』（英語改訂標準訳・日本語口語訳 対照）日本聖書協会 1968年（昭和43年度中等部卒業記念）ほか1点
- 図書館とともだち・鎌倉様 『ととも 図書館とともだち・鎌倉20周年記念誌』2019年2月28日
- 木村光彦（大学教員）様 欠席届 青山学院専門学校経済科 昭和22年10月14日
- 大倉精神文化研究所様 「世の為に田を耕す～大倉家三代の生き方 第三十八回研究所資料展の報告を兼ねて」『大倉山論集』第六十五号抜刷 2019年3月
- 麻生英臣様 Campbell, William Alexander Flint宣教師夫妻の碑に関する資料
- 丸山忠璋様 『バイブルソングス』G.シュトルム作曲 音楽之友社 1960年11月10日（次頁写真①）、『古典合唱名曲選ロシア混声合唱篇1』津川圭一著 東京音楽書院 1939年7月15日 ほか合唱曲・楽譜等多数
- 八耳俊文（女子短期大学学長）様 青山学院女子部（青山女学院）創立六十周年記念（パンフレット）昭和9年11月、プラットフォームズ講堂 絵葉書 昭和26年6月19日（次頁写真②）ほか6点
- 青山学院女子短期大学同窓会様 「青山学院女子短期大学同窓会会報」第45春号・秋号 2019年4月25日、2019年9月25日 各1点
- 高木玲子（校友）様 青山学院女子短期大学 卒業記念アルバム 1954年3月
- 吉岡勝見（校友）様 「グリーンハーモニー OB NEWS」No.59 2019年4月21日
- 黒崎裕様 青山学院女子専門部生徒手帳 金子豊子 [昭和17年]、学徒勤労働員に係るお知らせ（青山学院女子専門部長古坂嵩城から保証人宛）昭和19年6月4日、青山学院女子専門部卒業証書 金子豊子 昭和19年9月21日（次頁写真③）ほか7点
- 齋藤元子（校友・女子短期大学非常勤講師）様 Ella M. Blackstockの訃報記事（生年についての記載あり）
- 青山学院高等部同窓会様 「青山学院高等部同窓会報」77号 2019年5月25日
- 陶徳民様 『西教東漸と中日事情 拜礼・尊厳・信念をめぐる文化交渉』陶徳民著 関西大学出版部 2019年3月31日
- 遠藤真名美（校友・職員）様 『デイリーコンサイス英和辞典』第4版（大学マーク入り）1985年9月1日
- 泉宏（校友）様 「戦中の一時期、工業専門学校により青山学院の歴史はつながった」青山学院理工会著 2004年

10月 ほか2点

- 佐藤晟雄（校友）様 「わたしのスケッチブック」（17）佐藤晟雄著 2019年5月15日、「英米文学研究」第7号 青山学院英文学部 1940年3月15日（次頁写真④）ほか5点
- 下河邊史郎（校友）様 「緑ヶ丘通信」No.120 青山学院大学山岳部OB会 2019年4月28日 ほか1点
- 青山学院大学体育会OB・OG連合会様 『「50年の歩み」青山学院大学体育会OB・OG連合会創立50周年記念誌』青山学院大学体育会OB・OG連合会 [2019年]
- 木村匠（校友・職員）様 ラグビー・フットボール・マッチ リーフレット（成蹊大学対東京大学、青山学院大学対早稲田大学）昭和37年10月20日（次頁写真⑤）
- 柴崎由紀様 『米山梅吉ものがたり 奉仕の心で社会を拓く』柴崎由紀著 銀の鈴社 2019年7月1日
- 犀川珠子（校友）様 長島愛生園の子どもたちの写真 昭和23年1月10日
- 青山学院大学英米文学科同窓会様 「青山学院大学文学部英米文学科同窓会会報 Aoyama Sapience」第41号 2019年7月15日
- 米戸一雄様 『青山女学院史』青山さゆり会 1973年11月16日
- 西村美法（校友・元職員）様 昭和41年度青山学院大学卒業記念ネクタイピン、青山学院絵葉書（創立100周年記念）12枚組 制作：TOHTO 写真撮影：清水明（校友）昭和49年 ほか2点
- 鍋嶋那津子（校友・元中等部教員）様 青山学院大学成績証明書 昭和34年7月20日 山本那津子 ほか13点
- 川上善子様 教員免許状：師範学校中学校高等女学校教員無試験検定合格者 小原順子（校友）昭和14年4月20日、卒業証書：青山学院女子高等部 小原朝恵 昭和25年3月25日
- 山田賢二郎（校友・名誉博士）様 青山学院大学名誉学位記（日本語・英語各1点）、「山田賢二郎博士に、青山学院大学名誉博士の称号を贈呈する理由」書、アカデミックドレス（フード）2002年3月25日、National Association of Independent Colleges and Universities (NAICU) 総会でクリントン大統領（当時）他との写真 1996年
- 米山梅吉記念館様 『米山梅吉 遺しし言の葉』米山梅吉記念館 2019年9月14日 ほか3点
- 羽坂勇司（校友・元理事長）様 中学部校友会メダル 皇紀2598（1938）年
- 清水絃一様 『江戸幕府と長崎政事』清水絃一著 岩田書院 2019年9月
- 青山学院大学同窓祭事務局様 「青山学院大学同窓祭 AOYAMA GREEN FESTIVAL 2019」プログラム 青山学院大学同窓祭事務局 2019年9月23日
- 勝見允行様 「落穂 故山田米子女子追悼文集」コピー 著者・発行：櫻井成明（元教員）明治27年7月3日、『落穂 現代文訳』著者・発行：勝見允行 2019年3月6日 ほか2点

- 深山和子(校友)様 桜井成廣(元大学教員)アドバイザーグループほかの記録 昭和28年～平成26年(写真・名簿ファイル2分冊)
- 向井洋子(校友・元職員)様 青山学院女子短期大学プレイデイ記念テレホンカード 1995年(写真⑥)
- 他大学・学校 年史・紀要類多数

購入

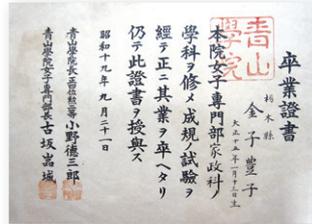
- 『あまつましみづ 異能の改革者永井英子の生涯』永田圭介著 教文館 2018年8月10日(写真⑦)
- 私立青山女学院卒業証書 安倍貞 明治44年3月29日(写真⑧)



写真①『バイブルソングス』



写真②プラット・スプロールズ 講堂絵葉書



写真③青山学院女子専門部卒業証書



写真④『英米文学研究』第7号



写真⑤ラグビー・フットボール・マッちらーフレット



写真⑥青山学院女子短期大学プレイデイ記念テレホンカード



写真⑦『あまつましみづ』



写真⑧私立青山女学院卒業証書

青山学院資料センター利用案内

- 展示ホールの見学
青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。
公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00 (入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30～13:00 (入館は12:30まで)
※特別展示「相模原キャンパスの15年」を開催中です。(12/24(火)まで)
- 資料閲覧
青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。
閲覧時間 (いずれも昼休み11:30～12:30)
月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00



特別展示の様子

- 休室日
日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他学院が定める休日
年末年始休業期間<12/25(水)～1/5(日)>
- 問い合わせ
青山学院資料センター
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階
TEL 03(3409)6742
FAX 03(3409)8134
メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。
<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>

「戦争末期・終戦直後の青山学院」青山学院に学んだ方々より当時の貴重な体験を話して頂きます。ぜひ御参加ください。
(公開座談会)のご案内 日時:2020年1月28日(火)14時～16時(事前予約不要) 会場:青山学院大学総合研究所ビル9階第16会議室

資料センター運営委員

院長(職務上)	山本与志春	高中部(高)	教員1人	佐藤 隆一
常務理事1名(職務上)	楯 香津美	高中部(中)	教員1人	森田久美子
学院宗教部長(職務上)	大島 力	初等部	教員1人	窪田 靖
大学図書館長(職務上)	野末俊比古	幼稚園	教員1人	太田奈那子
大学 教員1人	小林 和幸	総局長(職務上)		石黒 隆文
女子短期大学 教員1人	清水 康幸	資料センター事務長(職務上)	岩本 智実	

資料センタースタッフ人数

資料センター事務:
専任 3人 派遣 1人
パートタイム 3人
(週3日:2人、週5日:1人)
『青山学院150年史』編集業務:
大学文学部助手(出向) 2人
パートタイム 2人
(週3日:1人、週1日:1人)

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 21号

青山学院資料センター編・発行
2019年12月19日発行

